

<p>学校教育目標</p>	<p>○考える子（自ら課題を見つけ、考え、解決できる）「なるほど」 ○やりぬく子（粘り強く学んでいける）「できる」 ○明るい子（笑顔で元気に挨拶できる 仲間のよさを認め合える）「ありがとう」</p>	<p>目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像</p>	<p>○家庭や地域から信頼される学校 ○学ぶ喜びを感じる児童 ○学年経営を軸にしたチーム力を高め、多様な児童理解による教育の推進</p>
<p>前年度までの本校の現状</p>	<p>成果</p> <p><成果> ・「教科担任制」の校内研究を通じた、教員一人一人の授業力、専門性の向上。 ・OJTを活用した若手教諭の人材育成および児童指導力や保護者対応力の向上。 ・特別支援教室巡回指導教員、スクールソーシャルワーカー、はあとポート等との連携と多様な児童理解。</p>	<p>課題</p>	<p><課題> ・書画カメラの活用、学習端末の利活用と情報教育についての共通理解。 ・にしこスタンダードや学習のやくそくを基にした、学習規律の徹底と全校で共通した授業の展開。 ・教職員の共通理解に基づいた児童への支援や健全育成を図るための関係機関との連携。</p>

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> 各教科における探求的な学習を重視した授業改善 課題の設定→情報収集→整理分析→まとめ・表現の学習過程を実施 「学習のやくそく」を各教室に掲示、学習規律の徹底 UDLの視点を基にした全教員の授業改善 教科担任制の効果的な運用（理科、社会、体育）と段階的な導入 一上学年…教科担任制 下学年…授業交換 委託者によるEDOスク及び放課後補習教室の実施 ミライシードの活用 全校漢字、算数テストの実施と分析 	<ul style="list-style-type: none"> 板書カードや1マス・1行マグネットを毎日授業で使用しているが確認する。 学習規律に関する児童アンケートの肯定的な回答…8割以上 全教員が、UDLの視点を基に、児童の特性に合わせて学び方を選べるようICT機器等の活用も含めてオプション等を工夫していく。担当児童の授業改善 校内実践報告会を年1回行う。 教科担任制による指導を通して児童一人一人の学力の向上を図る…児童アンケートで教科担任制や授業交換についての肯定的な意見8割以上 4～6年生は、各学級4～5名の児童を対象に毎週1回EDOスク（放課後補習教室）を実施 …全体の出席率9割以上 1～3年生は、毎週金曜日の放課後に担任による補習教室を実施する。 ミライシードの活用…全学年、実施率10割 漢字テスト、算数ベシック診断テスト（4、5年は学力定着度調査）全員実施と分析…年間2回実施、平均正答率漢字9割以上、算数8割以上 	70%	75%	B	<ul style="list-style-type: none"> 板書カード等の活用が定着しつつある。 ○児童アンケートより、学習規律に関するほとんどの項目で9割以上の肯定的な回答があった一方で、「よい姿勢で学習に取り組んでいますか」という項目については、8割以下の回答であった。毎時間の授業の中で丁寧に確認し、徹底を図っていく。 ●各学級でUDLの視点を基にした授業改善を進めている。UDL GOALの共有となぜ学ぶかについての理解を深めていく必要がある。 ○夏季休業中には講師を招聘し、UDLの視点を基にした授業実践報告会を実施し、各学級の児童の予想されるバリエーションやそれを解決するオプションを具体的に考えることができた。 ○学年経営の視点を大切に、3年生以上で教科担任制による指導の充実を図っている。児童アンケートの「学級目標や自分のめあてについて、続けて取り組もうとしているか。」の項目では、9割4分の児童が肯定的に評価していることから、担任以外の教員が指導にあたっても自分の目標やめあてに対して積極的に取り組もうとしている態度が見られる。9月からは、1、2年生も教科担任制を実施していく。 ●放課後補習教室はほぼ10割の児童が出席できているが、個々の課題に適した学習内容を検討し改善していく。 ○ミライシードのドリルパークの日の取組は学年による差はあるが、定着しつつある。 ○各学級で全校算数テスト、漢字テストが合格するよう継続して指導を行っている。 ●2～6年生の児童において、計算テストの平均正答率8割を超えたのは2つの学年で、漢字テストの平均正答率9割を超えた学年はなかった。繰り返し練習に取り組む、正答率を高めていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> UDLの視点を基にした授業改善については、非常に興味深い。 ・「学ぶ」という行動のモチベーションも大切である。そこには、教師と児童のコミュニケーションが深く関わっていきと考える。 ・なぜその教科を学ぶのかを丁寧に教えていく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○授業では板書カード等の活用が定着しつつある。児童が見通しをもって学習に取り組めるよう、毎時間の使用を徹底していく。 ○年度末の児童アンケートでは「学習規律」について肯定的な回答の児童が9割程度となっており、引き続き学校共通「学習のやくそく」について指導を進める。全学年で落ち着いた状態で授業ができるようにしたい。 ○7月と1月に授業実践報告会を行い、教員間でUDLの効果的な実践が共有でき、校内の実践意欲が高まっている。 ○教科担任制のメリットを生かして、授業の質を上げることができている。 ●教科担任制において、その年に受け持っていない教科についての指導レベルの維持については今後の課題となると考える。 ●4年生以上が対象となっている「EDOスク」については講師の変更もよくあり、担任と講師との連携については検討していく必要がある。九九や割り算等の計算タイムをとるなど、学習の流れを確認したい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童が学ぶ楽しさを実感できるようにしたい。 ・漢字の成り立ち等、児童が興味をもったことをさらに深めていけるようにするとよい。 ・教科担任制によるそれぞれの教科の専門性を生かしながら、教員同士連携を図り、学力向上に励むことができている。 ・児童が学ぶべき事項が増えている。それにつまずいてしまう児童への対応については、今後も考えていく必要がある。 ・児童は、それぞれの教科における学習の目的は理解しているようだが、身に付けた知識や技能が、将来どのような力につながるのかを考えていく必要がある。 ・視覚的なものも増えて分かりやすいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 予測不能なこれからの時代に問題を解決したり、自律して学習し続けられる児童の育成を目指して、各教科における探求的な学習を重視したさらなる授業改善を図っていく必要がある。 ・紙とデジタルの適切な使い分けについて、思考錯誤している状況である。発達段階に応じたデジタルの活用を工夫するとともに、低学年で学習規律や学び方の基礎を身に付けさせたい。 ・家庭学習と連携し、予習・授業、復習の学習サイクルの定着を図っていく。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間や各教科と関連させた、調べ学習等における図書資料の積極的な活用 総合的な学習・読書科等において思考ツール等を用いた探求的な学習の実施 図書館整備を行う図書館整備ボランティアを募集し、整備を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習機能としての図書館活用、児童の利用率の向上…各学期1回以上の利用 思考ツールを用いた学習の実施…各学期1回以上 ボランティアの決定、整備計画の立案 ボランティアによる図書館整備…週1回 ボランティアによる読み聞かせの実施…年6回程度 	80%	90%	B	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間や国語科、生活科等の授業で、調べ学習として学級や学年でまとめて本を貸し出し、活用することができた。 ○ボランティアによる図書館整備を通して、季節ごとの展示が行えた。 ●読み聞かせボランティアとして多くの保護者の方に参加していただけたが、全学級に配置するまでには至らなかった。 ●思考ツールを学習に活用していたが、様々なツールを活用することはできず、偏りが生じてしまった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本に接する機会を増やすような取り組みをしてほしい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○国語科の説明的文章の授業において、図書資料を用いて探究的に学習を進めることができた。 ○読み聞かせボランティアによる活動によって、読書に親しもうとする児童が増えた。 ○司書が相談・リクエストに応じて学習に必要な本を選んでくれて学級の授業に役立った。 ●読書科の目標など読書科指導指針で定められていることをOJT等で校内で共有したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> デジタルを活用して、読書に接する機会を増やすことを検討してはどうか。 ・児童が様々な本に触れ合えるよう、区立図書館と連携、調整を図れるとよい。 ・司書やボランティア等、多方面で連携してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習に必要な書籍の有無を5月中に把握する。図書室に本がなければ、区立図書館で借りられるよう調整したり、1学期末に購入したりする。 ・司書教諭や図書支援員のを中心として、学級文庫を整えていく。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上>	<ul style="list-style-type: none"> 体育学習スタンダードを活用した授業改善 なわ跳びチャレンジの実施（なわ跳び出前授業、各学期のなわ跳びウィーク） 短縄（リズム縄跳び）、長縄、ランニング月間の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 体育学習における校内研修を年3回実施する。 月1回の体力向上委員会において、体育学習スタンダードの見直しと改善を図る。 体力テストの結果…各学年8種目中5種目以上、都平均を上回る。 短縄、長縄、ランニング月間の実施…各年間1回（期間：1ヵ月程度） 短縄のなわとび名人…各学年1割以上 	70%	90%	B	<ul style="list-style-type: none"> ○体力調査前に体育学習や体カテストについての校内研修を実施した。また、水泳学習についての実技研修も行い、体育科の授業力向上が図れた。 ○9月に講師を招聘し、UDLの視点を取り入れた体育学習における実技研修会を行った。日々の指導に生かしていきたい。 ○児童が興味をもって短縄チャレンジに取り組めるよう、リズム縄跳びを全校で実施した。 ○児童が意欲的に運動に取り組めるよう、体力調査における目標値を設定した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きな子供たちに育ててほしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○体育科の授業では、準備運動で音楽のリズムに合わせて、楽しく体を動かすことができた。 ○休み時間の体育館開放を行い、児童が体を動かす機会が増えた。 ○体力テストでは、1年生～6年生の男女別種目の約79.1%（76/96種目）が都平均を上回った。また、体力テストの結果を学校・家庭に発信し、児童の課題に応じた取り組みを促すことができた。 ○長縄や短縄では、目標値に達した学級や児童に表彰を行い、今後の取り組みへの意欲付けをすることができた。 ●体育学習スタンダードの実施状況を共有し、改善を図るとともに、今後も積極的に取り組んでいく必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を苦手としている児童が救われるような、UDLの視点を基にした授業改善は素晴らしい。 	<ul style="list-style-type: none"> UDLの活用により、ほとんどの児童が自らの技能や意欲によって場や学習内容を選択して遊び、体力向上に努めることができた。しかし、一部の児童がめあてに即していない活動を行っていたため、適切な言葉掛けや支援をする必要がある。 ・体育的活動が充実していき一方で、それにとまった怪我も増えているので、安全管理、安全指導を継続して行っていく。

<p>共生社会の 実現に向けた 教育の推進</p>	<p><特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実</p>	<p>・ユニバーサルデザインに関する掲示物の作成 ・誰もが分かりやすい学習環境の整備（全学級に配備された書画カメラや学習端末等） ・教員一人一人が特別支援教育についての理解を深め、指導に生かす ・児童や保護者の特別支援教育への理解推進に努める ・エンカレッジルーム活用促進に向けた教員の分担 ・個別指導計画に基づく指導力の向上 ・副籍交流に向けた特別支援学校との連携</p>	<p>・学校評価アンケートにおける特別支援教育に対する肯定的な回答…8割以上 ・書画カメラや学習端末を活用した授業を実施…全学級1日1回以上 ・特別支援に関する研修を年2回以上実施 ・特別支援教育の理解推進に向けた授業を2年生等で実施 ・入学説明会や保護者会での特別支援コーディネーターや巡回指導教員による説明 ・巡回指導教諭や心理士、SCと面談…年間3回実施 ・毎時間のエンカレッジルームの担当教員を配置 ・配慮を要する児童の個別指導計画の作成と改善…各学期1回 ・年1回以上の交流学習の実施</p>	80%	90%	B	<p>○書画カメラや学習端末を1日1回以上、授業で活用することができている。 ○校内研究と兼ねて特別支援研修を実施した。2学期以降はOJT研修の計画中で1回以上、特別支援研修を実施していく予定である。 ○エンカレッジルームサポーターを新たに配置したことで、毎時間担当教員が児童の対応に当たることができた。また、外国籍児童や保護者対応において、通訳により問題解決ができた。 ○全校集会でかがやき教室の紹介を行うことにより児童の特別支援教育に対する理解を促すことができた。 ○特別支援教室専門員が各学級の授業を積極的に観察したことで、児童理解が深まり、担任と巡回指導教員の連携が更に強まった。 ○副籍交流については、行事の準備に携わったり、昇級の授業に参加したりする等、計画的に行っている。</p>	A	<p>・エンカレッジルームサポーターが固定で3名配置しているのは、とても安心である。 ・特別支援教育の推進にあたって、様々な方が関わっているのはとてもよいことである。それが実感できる体制になっている。 ・今後、教師の仕事として、特別支援教育に関わるものがさらに増えていくのではないかと考える。</p>	A	<p>○エンカレッジルーム、かがやき教室、特別支援教育専門員、介助員、心理士、SC、外部機関等、それぞれの児童に応じて連携を図って支援や指導に当たることができた。 ○OUDの視点をもって、掲示物の作成や言葉掛け、ICTの活用により、個人に合った学習活動ができた。そのため、特別な支援を要する児童への対応により多くの時間を掛けることができた。 ○エンカレッジルームを柔軟に利用できたことで子供の心理的ケアが充実していた。 ○2年生で、かがやき巡回指導員による特別支援教室への理解を促す授業実践を行った。 ○副籍交流は対象児童も楽しく学んでいる様子で、通常学級の児童にとってもよい刺激となった。 ●特別支援教育についての教員の理解をさらに高めていく必要がある。</p>	A	<p>・様々な関係機関やサポートスタッフとの連携体制が整っていることは、児童にとってもよいことである。 ・さらに特別支援教育への理解を深め、すべての児童、教師、家庭の共通した認識を図り、連携した活動ができれば、本校の課題は解決していくはずである。</p>	<p>・特別支援教育に対する理解を高めているように、年度初めの全学年へのパンフレット配布や保護者や保護士への説明を実施していく。パンフレットは、学校公開の際に受付に置き、周知を図る。 ・巡回指導教員による授業や保護者会での説明等を充実させ、保護者や児童の特別支援教育に対する理解を深めていく。</p>
<p>不登校・いじめ対応の充実</p>	<p><子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・L-gate等の活用 ・SNS学校・家庭ルールの見直し</p>	<p>・いじめ防止対策委員会や不登校対策委員会、生活指導夕会による情報共有を行い、いじめや不登校の未然防止と早期解決につなげる ・SSW等関係機関との連携 ・L-gate等を活用した児童理解 ・hyperQUの実施と分析 ・長期休業日前のSNS家庭ルールの計画的な見直し ・にしこスタンダードの徹底 ・夏季休業中のオンライン朝会、2学期開始前のL-gateの入り</p>	<p>・いじめ防止対策委員会、不登校対策委員会の実施…毎月1回 ・生活指導夕会の実施…毎週1回 ・いじめ調査の実施（年間3回） ・SSW等関係機関との連携…年10回以上 ・hyperQUテストの実施分析、授業改善…年間1回実施 ・L-gateの実施…毎日 ・SNS学校・家庭ルール…にしこスタンダードの見直し…年間2回 ・SCによる授業の実施（個を尊重することの大切さ）…年間1回以上 ・全学級、夏季休業中のオンライン朝会を実施、2学期開始前のL-gateの入力を1週間実施</p>	70%	80%	B	<p>○学年会や教科担任の実施により、学級を超えて児童の情報共有を行うことによりいじめや不登校の未然防止に務めることができた。 ○いじめ調査により児童の小さなトラブルを察知し、対応することによりいじめ、不登校の未然防止に繋げることができた。 ○事例によってはスクールカウンセラーにつなげたり、夕会等で学校全体に報告したりした。</p>	A	<p>・いじめや不登校の対策に力を入れていることは、素晴らしいことである。 ・L-gateを活用して児童理解を図ることはとてもよい。その一方でその子の本当の気持ちや表れているのか、確実な見取りには注意が必要である。 ・L-gateのみならず、自分の思いを言葉で伝えられるようになる方法も考えていかなければならない。</p>	B	<p>○週一回の生活指導夕会や記録ファイルの更新、学年会の充実等により児童の情報共有ができ、学校全体での対応ができていく。 ○登校渋りの傾向が見られる児童に対して、Sやエンカレッジルームの利用などを通じて即時対応することができた。 ○毎朝、教員が玄関で挨拶をし、休み時間に児童と一緒に遊んだりすることで児童の様子をよく観察し、実態把握や生活指導につなげることができた。</p>	B	<p>・いじめの早期発見・早期解決に今後も力を入れてほしい。 ・児童が自分を理解してくれる人がいると感じられるような体制づくり（エンカレッジサポーター等）はとてもよい。</p>	<p>・校内のOJTを通して主に若手教員を対象に、生活指導の基本（児童への聞き取りの仕方や保護者とのコミュニケーションのとり方等）について、学ぶ機会を設けている。次年度以降も継続し、教員の生活指導力の向上に努めていく。 ・L-gateは児童の心情を把握する上で効果的だが、勤務時間や業務の関係係上チェックする時間が確保しづらいという課題があるので、L-gateの効果的な活用方法について共有する機会を設けていく。</p>
<p>学校（園）の開かれた 地域社会に の実現</p>	<p><自校（園）の取組の積極的な発信> ・学校（園）ホームページの充実等 ・学校（園）公開の実施・充実</p>	<p>・行事や児童会活動、日々の教育活動について、随時学校ホームページに掲載する。 ・学校公開において、各教科や総合的な学習の時間、専科授業等をバランスよく公開し、公開アンケートを実施・活用する</p>	<p>・各行事や児童会活動についての学校ホームページの更新…実施後3日以内に掲載する。 ・各学年の教育活動についての学校ホームページの更新…週に1回以上 ・学校公開アンケート…年間3回実施 ・アンケートにおける肯定的な回答…8割以上</p>	80%	90%	B	<p>○各行事や児童会活動についての学校ホームページの更新を毎日実施している。 ○学校公開アンケートにおける肯定的な回答が9割以上であった。 ●学校公開アンケートを1学期の学校公開後にformsを使って実施した。回答数が少ないのが課題である。回収結果を報告し、回収率を高める工夫を検討していく。</p>	A	<p>・多対多の依頼で、人は動きにくいと感じます。この点をうまくできるとよいと思う。</p>	A	<p>○毎日ホームページを更新することで、児童の様子を地域に発信し、学校教育への理解が深まった。 ○学校公開により、各教科・領域をバランスよく公開することができ、多くの人が参観に来られた。 ●外部機関の保護者への連絡が円滑に進まないことが多々あった。毎回翻訳していた連絡は、担任一人では対応しきれない業務負担が大きいので改善が必要である。</p>	A	<p>・ホームページの充実は素晴らしい。 ・デジタルDXについては、児童の方が詳しくなり、問題にならぬか気を付けていきたい。</p>	<p>・DX化が急速に進む中、地域と学校が一体となってデジタルDXを進めていきたい。</p>
<p>特色ある 教育の展開</p>	<p><地域資源を活用した学習> ・年間指導計画に基づく取組の実施</p>	<p>・各教科や総合的な学習の時間等において、地域人材を活用した学習やグリーンプラン推進校としての環境学習</p>	<p>・地域人材を活用した学習やグリーンプラン推進校としての環境学習の実施…各学年、年間1回以上</p>	60%	80%	B	<p>○グリーンプラン推進校として、3年生ではヤゴプールから救出し、弱体化させる活動を行った。 ○グリーンプラン推進校として2学期以降はゲストティーチャーを活用した授業を、各学年、年間1回以上行う。</p>	A	<p>・グリーンプラン推進校として、環境整備ができていく。 ・あまり見られなかったとほも見られ、スガキや道を思い出させているのではないかと感じる。</p>	A	<p>○グリーンプランで児童の体験活動の充実を図られた。 ○社会科や総合的な学習の時間以外に外部講師との授業実施し、専門の方から話を聞くことができ、学習の理解につながった。</p>	A	<p>・児童が自然に触れる機会を多くする活動はとてもよい。 ・とても魅力的で楽しそうな活動がされていよい。</p>	<p>・出前授業の実施により、環境問題への理解・啓発ができた。</p>
<p>特色ある 教育の展開</p>	<p><兄弟学年班活動の充実> ・特別活動全体計画に基づく取組の実施</p>	<p>・兄弟学年班遊びの実施 ・兄弟学年班によるなかよし読書や全校遠足等の実施</p>	<p>・兄弟学年班遊びを学期に1回、年間3回実施 ・兄弟学年班によるなかよし読書を年2回実施 ・児童アンケートにおける兄弟学年班活動の肯定的な回答…8割以上</p>	80%	90%	B	<p>○兄弟学年班遊びやなかよし読書は、1学期に1回計画的に実施し、児童の意欲的な姿が見られている。 ○児童アンケートにおける兄弟学年班活動の項目「兄弟学年班活動（兄弟学年班遊び、なかよし読書、全校遠足）にすすんで取り組んでいますか。」において、約9割5分の肯定的な回答であった。</p>	A	<p>・今後も兄弟学年班活動の充実を図ってほしい。</p>	A	<p>○児童は兄弟学年班活動が大変楽しみにしており、日常でもすすんで関わろうとする姿が見られた。 ○上学年の児童は、年下の子との遊び等を通して責任感等を養うことにつながった。</p>	A	<p>・ダイバーシティを早く体感するよい機会となるはずである。</p>	<p>・兄弟学年班活動の顔合わせや遊びの回数や時期を検討し、内容の充実を図っていく。</p>
<p>特色ある 教育の展開</p>	<p><働き方改革の推進></p>	<p>・月1回の定時退勤日の設定 ・会議や行事の精選</p>	<p>・全教職員の月残業時間45時間以下</p>	60%	80%	B	<p>○月1回の定時退勤日が浸透し、全教職員の共通理解の基盤が築かれている。 ●4月～7月の全教職員の月平均残業時間は、約4.8時間であった。働き方改革の推進に努めていく必要がある。 ●会議や行事の精選については、来年度に向けて現段階から各分室で検討していく必要がある。また、特別活動に関する行事が1学期に集中したため、時期を検討していく。</p>	A	<p>・Slackなどの電子的なツールでの知恵の共有が必要かもしれない。 ・働きすぎに気を付け、働き方改革の推進を今後も進めていってほしい。 ・教員の頑張りを評価する方法がいろいろなか。</p>	B	<p>○会議等を精選したり、学校に関わる職員を大規模に増やしたりしたこと、校務改善が図れた。 ○定時退勤日を設定し、学年で計画的に職務を進める意識が高まった。 ●行事や研究、成績処理など負担の大きいところについては、今後検討の余地がある。</p>	B	<p>・AIを安全に使うノウハウが必要である。 ・他機関や様々なスタッフと協力して、働き方改革をさらに推進してほしい。</p>	<p>・4月～12月（8月除く）における教員の平均残業時間は4.8時間であった。月残業時間が多くなる理由についてはしっかりと分析し、対応していく必要がある。</p>
<p>特色ある 教育の展開</p>	<p><教員研修の実施></p>	<p>・教員の組織的な育成</p>	<p>・他の教員の授業を年2回以上見合う機会を設ける。 ・OJT研修の実施…年間18回</p>	80%	95%	B	<p>○OJT研修については、当初の計画通り進められ、管理職や主幹教諭、主任教諭が講師となり、教職員同士が学び合う良い機会となっている。一教職員の資質の向上にもつながっている。</p>	A	<p>・OJTを通して、学び合える高め合える集団ができるとよい。</p>	A	<p>○年間通じたOJT研修、研究や体育、ICT研修等を計画的に設定し、学ぶ機会が多くなることができた。また、普段から教職員同士が学び合える温かい雰囲気がある。</p>	A	<p>・OJTの準備等は大変だと思いが、今後も推進してほしい。</p>	<p>・今後もOJT研修等を通して、互いに学び合い、高め合うことのできる集団を形成したい。</p>